

課題名	15. 昆虫成育制御剤（IGR）によるミカンハモグリガの効率的防除法																																																															
成果の要約	<p>カンキツの新葉の害虫ミカンハモグリガの防除には合成ピレスロイド剤が使用されているが、散布回数が多く、ミカンハダニのリサージェンスを起こしたり、薬剤抵抗性の兆しがみられるなど、防除上問題が多い。このため合成ピレスロイド剤を使用しない防除体系の確立が望まれているが、代替となる昆虫成育制御（IGR）剤を通常の散布間隔で散布しても防除効果はあまり高くない。</p> <p>そこで防除効果を高め、かつ散布回数を増やさない防除体系を検討した。</p> <p>(1) デミリン水和剤2000倍あるいはインセガー水和剤1000倍を夏芽の発生初期に3～5日間隔で2回散布し、その後それらIGR剤か硫酸ニコチン600倍を5～10日間隔で2回散布すれば、散布回数を増やすことなく、夏葉の被害を許容水準（被害度5程度）以下に抑えられる。</p>																																																															
成績概要	<p>表1 IGR剤の散布間隔とミカンハモグリガに対する防除効果（1989年）</p> <table border="1" data-bbox="233 943 1671 1590"> <thead> <tr> <th colspan="3">供試薬剤名</th> <th>散布間隔</th> <th>散布回数</th> <th>被害葉率</th> <th>被害度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デミリン</td> <td>水和剤</td> <td>2000倍</td> <td>3、7、10日</td> <td>4回</td> <td>6.2%</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td>デミリン</td> <td>水和剤</td> <td>2000</td> <td>5、7、10</td> <td>4</td> <td>2.1</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>デミリン</td> <td>水和剤</td> <td>2000</td> <td>5、10、10</td> <td>4</td> <td>6.4</td> <td>3.3</td> </tr> <tr> <td>インセガー</td> <td>水和剤</td> <td>1000</td> <td>3、7、10</td> <td>4</td> <td>6.8</td> <td>1.9</td> </tr> <tr> <td>デミリン</td> <td>水和剤</td> <td>2000</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>18.8</td> <td>8.3</td> </tr> <tr> <td>インセガー</td> <td>水和剤</td> <td>1000</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>10.8</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>ミカントップ</td> <td>乳剤</td> <td>2000</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>無</td> <td>処</td> <td>理</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>63.3</td> <td>41.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>散布開始日： 7月14日      調査月日： 8月17日</p>	供試薬剤名			散布間隔	散布回数	被害葉率	被害度	デミリン	水和剤	2000倍	3、7、10日	4回	6.2%	2.9	デミリン	水和剤	2000	5、7、10	4	2.1	0.8	デミリン	水和剤	2000	5、10、10	4	6.4	3.3	インセガー	水和剤	1000	3、7、10	4	6.8	1.9	デミリン	水和剤	2000	7	4	18.8	8.3	インセガー	水和剤	1000	7	4	10.8	3.4	ミカントップ	乳剤	2000	7	4	0	0	無	処	理	—	—	63.3	41.4
供試薬剤名			散布間隔	散布回数	被害葉率	被害度																																																										
デミリン	水和剤	2000倍	3、7、10日	4回	6.2%	2.9																																																										
デミリン	水和剤	2000	5、7、10	4	2.1	0.8																																																										
デミリン	水和剤	2000	5、10、10	4	6.4	3.3																																																										
インセガー	水和剤	1000	3、7、10	4	6.8	1.9																																																										
デミリン	水和剤	2000	7	4	18.8	8.3																																																										
インセガー	水和剤	1000	7	4	10.8	3.4																																																										
ミカントップ	乳剤	2000	7	4	0	0																																																										
無	処	理	—	—	63.3	41.4																																																										

表2 IGR剤の散布間隔とミカンハモグリガに対する防除効果(1990年)

供試薬剤名			散布間隔	散布回数	被害葉率	被害度
インセガー	水和剤	1000倍	3、5、7日	4回	9.5%	1.8
インセガー	水和剤	1000	3、5、10	4	10.5	2.4
インセガー	水和剤	1000	5、5、7	4	6.8	1.8
デミリン	水和剤	2000	3、5、7	4	1.9	0.6
インセガー	水和剤	1000	7	4	28.7	7.8
デミリン	水和剤	2000	3 } 5、7 }	2 } 2 }	2.8	1.2
硫酸ニコチン	乳剤	600				
ミカントップ	乳剤	2000	7	4	1.3	0.3
無	処	理	—	—	68.3	50.2

散布開始日： 7月17日

調査月日： 8月23日

(果樹試験場)

(1) デミリン水和剤、インセガー水和剤ともに年間の使用回数が2回であるので、散布にあたって両者を使用するか、硫酸ニコチンとの併用を行い、安全使用基準を遵守すること。